

授業科目名	助産学総論 <i>Introduction to Midwifery</i>					担当教員	永松 美雪				
開講年次	1年通年	セメスター	1・2			時間数(単位数)	30(1)				
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義			使用教室					
授業の目的	日本と世界の助産の歴史と文化、助産師教育の変遷、助産師の機能と役割、助産師の法的責務、リプロダクティブヘルス、性と生殖にかかわる倫理問題について学ぶとともに、自律した専門職としての助産師のあり方について考察する。										
到達目標	1. 日本及び世界の助産の歴史と助産師の職業の歴史を述べることができる 2. 助産や助産師の定義や役割・機能について述べるができる										
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6 (保健)	DP6 (CNS)	DP7 (CNS)	DP6 (助産)	DP7 (助産)	DP8 (助産)
									◎	○	○
授業計画	1回 助産とは 2回 日本の助産の歴史(プレゼンテーション) 3回 近年における日本の助産の動向(プレゼンテーション) 4回 諸外国の助産の歴史(プレゼンテーション) 5回 近年における諸外国の助産の動向(プレゼンテーション) 6回 現在の助産の概念と助産師の定義(プレゼンテーション) 7回 助産師の業務と助産活動の法的根拠(プレゼンテーション) 8回 日本の助産師職能団体の役割(日本助産師会、日本看護協会)(プレゼンテーション) 9回 国際的な助産師職能団体の役割(ICM、WHO、FIGO、UNICEFなど)(プレゼンテーション) 10回 ICMが示す助産師の能力(プレゼンテーション) 11回 助産師が行うケアの理念(プレゼンテーション) 12回 助産に関する政策(プレゼンテーション) 13回 助産学を支える理論と研究(プレゼンテーション) 14回 日本と諸外国における助産と育児に関する文化の比較(プレゼンテーション) 15回 日本と諸外国における助産師教育の比較(プレゼンテーション)										
学習方法	助産や助産教育の歴史をふまえて、助産師の役割・機能について実践と関連付け、自律した助産師の在り方について考え、助産の展望を検討する。また、専門職業人として安全で満足できる助産ケアの基盤となる考え方を学ぶ。授業は、講義とプレゼンテーションを組み合わせる。										
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール(永松:m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp)にてアポイントを取って下さい。										
テキスト	我部山キヨ子 武谷雄二編集:助産学概論, 第5版. 医学書院, 2015. 福井トシ子編:助産師業務要覧 基礎編, 第3版. 日本看護協会出版会, 2019.										
参考文献	青木康子編:新助産学シリーズ助産学概論. 東京, 青海社, 2013. 加藤尚美編:基礎助産学第1巻助産学概論. 東京, 日本助産師会出版, 2013. 山本あい子編:助産師基礎教育テキスト第1巻助産概論. 東京, 日本看護協会出版会, 2018. 吉沢豊予子編:助産師基礎教育テキスト第2巻女性の健康とケア. 東京, 日本看護協会出版会, 2018. 成田伸編:助産師基礎教育テキスト第3巻周産期における医療の質と安全. 東京, 日本看護協会出版会, 2016. 窪田昭男編:周産期精神保健への誘い:親子のはじまりを支える多職種連携. 大阪, メディカ出版, 2015. 永田雅子:妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア:親と子の出会いからはじまる周産期精神保健. 京都, ミネルヴァ書房, 2016.										
評価方法	授業参加度(20%)、プレゼンテーション(30%)、課題レポート(50%)										